

小児科この1年

小児科医長 平野 至規

診療スタッフ

平成19年12月に新宅茂樹が転出しましたが、平成20年1月に堀井百祐が加わりました。これにより診療体制は室野晃一診療部長以下、平野至規、佐藤敬、佐々木彰、椎葉豪、堀井百祐、太田圭の7人体制を維持することができました。4月には異動はありませんでしたが、10月には4年半勤務した太田圭が旭川医科大学小児科に転出し、代わって旭川医科大学小児科から岡野聡美が赴任しました。

外来（名寄市立総合病院）

一般外来は基本的に毎日午前・午後とも2診体制で行っています。また1カ月健診を3回/週、予防接種外来を1～2回/週行っています。

専門外来は旭川医大から出張していただいていた神経外来(高橋悟講師)、心臓外来(真鍋博美助教)を4月以降も1回/月で継続しています。内分泌外来も担当医師が上田修医師から鈴木滋医師に代わりましたが1回/3カ月で継続しています。さらに4月から血液外来(吉田真講師)が1回/2カ月で始まりました。そのほか、発達外来(佐々木)、アレルギー外来(平野)も継続しています。

外来（士別市立病院）

士別市立病院小児科の一般外来は、1月から堀井が加わり佐藤(月曜日)、平野(火曜日)、堀井/太田(水曜日)、佐々木(木曜日)、椎葉(金曜日)の6人で担当していました。10月に太田が転出したため担当は5人に減っています。1カ月健診と予防接種外来、アレルギー外来は継続しています。集約化前後での外来患者数は1日平均69名から55名に減少しています。

救急外来

小児科スタッフ7人で日当直を行い、24時間体制を維持しています。24時間体制になる前後で、救急外来を受診する患者数は1日平均10名から17名に増加しました。

病棟

病棟は主に佐々木、椎葉、堀井、太田(9月まで)、岡野(10月から)で診療にあたっています。また、

初期研修医の上田先生(1～2月)、安部先生(4～5月)、加藤先生(6～8月)、馬詰先生(8～9月)、山下先生(9～10月)、野崎先生(10～11月)、後期研修医の大門先生(4～6月)も頑張ってくれました。

平成19年の入院患者数は1124名(前年より+121名)で、一般小児914名(+151名)、新生児210名(-30名)でした。時間外に入院した患者数は457名(+29名)で入院患者の4割を占めていました。

乳幼児健診

今年も各地方自治体の乳幼児健診を担当しています。今年1年間で担当した乳幼児健診は、名寄市(41回)、名寄市風連町(6回)、下川町(5回)、美深町(2回)、中川町(12回)、士別市(26回)、剣淵町(10回)、和寒町(10回)の8カ所です。そのほか集団予防接種(ポリオ、インフルエンザ)や保育所健診なども担当しています。

学術活動など

抄読会は小児科単独で8回開き、1回に3～4編の発表がありました。

論文は2編、学会・研究会での発表は6題、その他講演会での発表は8題ありました。また、佐藤は名寄のFM局「Airてっし」でこどもの病気などに関する番組を1回/週担当しています。

おわりに

士別市立病院小児科との集約化に伴い24時間体制の小児科がスタートして2年目に入りました。救急外来を受診する患者数は約1.7倍に増加し、時間外に入院する患者も増加しています。集約化当初は、不安と混乱があった士別市立病院医療圏の患者さんたちにも、少しずつ受け入れていただいているのではないかと考えています。

ご存知のように小児医療は看護スタッフをはじめCo-medicalの方々のご尽力なくしては成り立ちません。小児科24時間体制が病院各部署およびスタッフの皆様の負担をさらに重くしてきたかもしませんが、今後ともご協力のほどよろしくお願いたします。

小児科としましては、この体制を維持することで地域の子どもたちにとって、また家族にとって、いつでも安心して受診していただけるような診療を提供できるように誠心誠意努力していきたいと思っております。